

ラジオママネット～ママトーク

第5回放送の概要（2017年8月26日）

（トークメンバー）

あっちゃん：50代、2人の子どもは成人。ママネットでは、はじめてのおけいこ、算数教室の指導員。

えみちゃん：40代、5年生（女）、1年生（男）、2歳の子ども。婦人会館では食育指導。

さおりん：30代、6歳、4歳の2人の子供。管理栄養士の資格あり、ママネットではキッズクッキング、ママのためのランチ教室担当。

じゅんちゃん：40代、3歳と0歳の女子。会社員、ママネットでは「婦人神戸」で2カ月に1回世界の教育事情のコラムを執筆。

あきねえ：40代、中一、小4、1歳。ママネットでは子育て支援関係の企画運営。

まきちゃん：40歳、小6（女）、小4（男）、小1（女）。ママネットは婦人会館HPの運営管理、神戸ママネット通信の発行、ワーキングラボのメンバー、子どもパソコンクラブの講師。

本日のテーマは、「女性が輝く社会とは（3）～地域との関わり～」です。女の子だから、お母さんだからこうしなければならないという固定観念が強く残っている中で、女性の働き手としてのニーズも高まっている現在、女性の社会進出と共に地域活動の担い手不足や、PTA活動のなすりつけあい、ご近所に顔見知りがないなど、多くの課題も生まれています。今日は特に地域との関わりについて深くトークしたいと思います。

- ・トークメンバーにご近所付き合いある？と聞くと、うーんという反応ですが、あっちゃんの場合自治会あり、回覧板は廻ってくる。班長になると年1回会費の徴収がある。仕事をしている人が多いので、その時にしか顔を見ない奥さんもいる。自分たちの世代のお母さんは、日中は家にいる人が多かった。今は昼間いる人のほうが少なくなっている。昼間近所を歩いてもベビーカーを引いた人、又はお年寄りしか見かけず、同年代のお母さんは多分仕事をしていると思う。PTAの役員を決めるとき、クラスに専業主婦は少ないのを感じた。40人中5人程度であった。平日の小学1年生の七夕のつどいの時、保護者も参加して下さいと言われると、1クラスに保護者が来ていたのは4～5人であった。あとは老人会の方が来ていた。
- ・東灘の自治会は年配がすごく頑張っている。東灘は地域が熱い。シニア世代が子育て支援に関わり熱い。子育て世代も色々サークルが出来ている。兵庫区のえみちゃんは、一人目の子供が生まれた10年前はサークル活動が盛んであったが、今は新しくリーダーになる人がおらず減っている。働いている人が多く1歳になると職場復帰している。少子化も影響している。
- ・中央区のじゅんちゃんは、マンションの集まりはあるが、自治会活動というものには関わっていない。地域のつながりは全くなく、今は差し支えはないが、震災など何かがあったときは、繋がりはあったほうがいいので不安はある。小学校に入ったとき繋がりを期待したができていない。参観日に親同士がしゃべる時間も少なく、新たな人との繋がりが生まれにくい。今は連絡網がなく、子供同士の問題で相手の親と話したいと思っても連絡のとり用がない。
- ・保育園では親がLINEでつながるということを知ることが・・・小学校ではPTAの役員をするといろんな部があり、その部の連絡用にLINEでグループを作ることがある。返信不要にしていると、あの人はスルーばかりと言われたり、OKのスタンプが一斉に返ってくる。すぐ返事できないこともあるといった陰口を聞くことも

あり、いややと思いPTAを敬遠することにつながる。

- あきねえは、小学校までは兵庫区、小学校に入ると中央区でコミュニティが変わるので、長女の時に友達が変わり地域活動に参加しにくいことを経験した。ドライに付き合っている。先日熊本の仮説住宅の人と話をして、そこでコミュニティを作りたいが、仮設はいつか離れる前提があるので、寂しさが出てくるのでそこでの付き合いに深く踏み込めないという話を聞いた。あきねえは地域の繋がりは大切にしたいと思うので、どこも受け皿がなかったのでママネットを選んだ。3人目の子供がダウン症なので今地域と繋がりたいとすごく思う。今どうやって繋がっていくかを模索している。
- 育児していると夜急に病気になると、どこで見てくれるのかという情報がなく、地域（鉾区の範囲）に住んでいる同じ年代を育てているお母さん同士でないと、情報が共有できないという問題はある。さおりんは情報共有のしようはないと思っている。自分は中央区保育所ママの会を作ったので、そこで出来た友達に聞いたりしている。そこは地域と繋がるのではなくママと繋がっている。それも大事だが病気になった時、学級閉鎖になった時はママは病気の子供を預かれないので、地域に子育ての終わった世代の知り合いがいればすごく助かる。下の子供が発熱したとき、上の子供の小学校の説明会に行く必要があったが、保育園に行っていないので一時保育も頼めず、実家も遠く預け先がなく、みんなママで頼めず、自分も病気の子供を預ける気にならない。しかし子育ての済んだ知り合いがご近所にいれば、説明会の2時間程度見てもらえればと切実に思った。自分たちが子供の頃は近所のおじちゃん、おばちゃんに成長をみてもらったことがあったが、今はまったくない。同じママの繋がりもあるが年代の幅を超えた、震災の時もそうであるが、何かあったときの顔見知り程度でもあればと思う。今はマンション住まいで繋がりがいい。
- ファミリーサポートを登録して何回か見てもらったことがある。マンションのすぐ近くに住んでいる独身の女性が空き時間があるということで見てもらえた。病気の子供はダメだったが、2~3時間の場合その人はとてもありがたい存在であった。昔はファミリーサポート制度はなかったが、病気関係なく見てもらっていた。その年代と30代が会う場所がないからか、昔はそのような場所があったのか、何がこのように違う理由なのか。親の実家は近所を歩けば知り合いばかりであった。2~3時間見てくれる人は沢山いた。理由は核家族化と平日に出会わないのは女性の社会進出と思う。みんなで集まってしゃべるのは無駄なようで長い目で見るとそのようなつながりは重要と思う。
- 学校が終わると子供たちが勝手に集まり、色んな年代の子やおばちゃんも出てきて、水をまいたりしゃべったり新聞屋も来て適当にしゃべっていた。そのような集いは保育所ママを立ち上げたように、今はあるものがないので思った人が作っていかないといけないということなのか。
- 保育所ママは同年代で声をかけやすい。世代間の考えの違いは相当ある。わざわざ所属しようと思ってもらえない。例えば婦人会はコミュニティが出来ている。そこに我々世代が入るのは勇気がいる。
- 話題は変わるが、お父さんより高い割合で母親を求めてくれる子供がいることを感じている（まきちゃん）。じゅんちゃんは父親に託しているので子供とすごく仲良くなっている。母親としては寂しくもある。子供から求められたときに厳しく対応しているから、父親の方が居心地がいいようだ。
- 60台を超えた方のしっかりしたコミュニティに自分たちが入っていくのも勇気がいるし、その人たちの活動は地域にとって大事な活動と思うが、それをそのまま自分たちが引き継いでいくのも難しい部分があり、時間的内容的に無理しすぎている部分があるのを見ていて思うし、その点については今後もt-句を継続していきたい。

(本日の感想)

- あっちゃん：自分の子供が夏休みにラジオ体操に行っていた時、地域のおばちゃんが犬の散歩にきていて、犬の散歩で仲良くなり、学校が終わってからお母さんがいないときは家に来てもいいといわれ、何度となく行かせてもらったことを思い出した。地域の色んな年代が集まる場面に、親も子供たちも行くことで繋がりが生まれることがある。
- えみちゃん：地域の夏祭りなどに参加すると顔見知りになれるのでいいと思う。
- さおりん：神戸出身ではないので自分と同年代はつながりやすいが、他世代との繋がりは自分もそのように育ってきたので出来ればと思う。
- じゅんちゃん：自分が小さいときに近所の色んな世代のおばちゃん達としゃべっていた風景が思い出されよかったと思う。その状態を今実現するのは無理だが、地域活動の情報に敏感になって出かけて行きたい。
- あきねえ：神戸出身ではないので、とりあえずはご近所さんへの挨拶を子供にもうるさく言っている。息子が出来てかわいい坊ちゃんね言われると、ダウン症のことなどを説明し、子供たちのことも知ってもらうよう毎日交流を深めるよう心がけている。
- まきちゃん：上の世代から我々に声をかけづらいということを知るので、自分たちのほうから挨拶して、きっかけをこちらから作っていくと、コミュニケーションが生まれてくる。こちらからという意識が必要と思った。

以上